

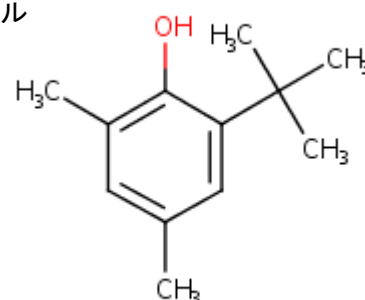
## 初期評価プロファイル (SIAP)

## 6 - tert - ブチル - 2,4 - キシレノール

物質名 : 6-tert-Butyl-2,4-xyleneol

化学式 : C<sub>11</sub>H<sub>14</sub>O

CAS No. : 1879-09-0



## 結論と勧告

反復投与動物試験の NOEL が低いためヒトへの有害性の可能性が確認されたが、ばく露は低レベルであると考えられる。

他の加盟国でばく露に関する反証を示す更なる情報が存在しない限り、本物質は現在のところリスクの可能性が低く、追加の作業の優先度が低いと考えられる。

## 結論と勧告を裏付ける理由

6 - t - ブチル - 2,4 - キシレノールは日本では製造されておらず、輸入量もゼロである。しかしながら本物質は TSCA (有害物質規制法) と EINECS (欧州既存商業化学物質インベントリー) に登録されている。本物質は酸性・アルカリ性・中性溶液中、安定で、「容易に生分解されない」と考えられる。

環境に関しては、試験結果から様々な NOEC と LC<sub>50</sub>が得られている : LC<sub>50</sub>=4.4 mg/L (急性、魚類)、EC<sub>50</sub>=5.6 mg/L (急性、ミジンコ)、EC<sub>50</sub>=3.6 mg/L (藻類)、NOEC=1.7 mg/L (藻類)、NOEC=0.32 mg/L (長期、ミジンコ、繁殖)。したがって本物質は魚類、ミジンコ、藻類に対して中程度の毒性を持つと考えられる。ミジンコの最小の慢性毒性データの中から、PNEC の計算にはオオミジンコ *Daphnia magna* の 21 日間 NOEC (繁殖) 0.32 mg/L を採用し、評価係数 100 を適用した。6 - t - ブチル - 2,4 - キシレノールの PNEC は 0.0032 mg/l である。本物質は加盟国内では製造されていないので PEC/PNEC の比は計算できなかった。したがって本物質は現在のところ環境に関するリスクの可能性が低いと考えられる。

本物質は細菌試験と *in vitro* 染色体異常試験で遺伝毒性を示さなかった。1 件の反復投与毒性・生殖・発生毒性組み合わせスクリーニング試験で、親動物に被験物質の投与に帰せられる臨床所見はなかった。

しかしながら肝臓と腎臓の重量増加が中用量と高用量 (30 mg/kg/日と 150 mg/kg/日) で認められた。さらにこれらの群には、組織病理学的検査で肝臓細胞の肥大と近位尿細管の変性およびたんぱく質円柱が認められた。生殖・発生エンドポイントを見ると、最高用量の少数の雌の仔が哺乳期間中に死亡しただけであった。他の影響 (交尾、妊性、発情周期など) は認められなかった。したがって NOEL は反復投与毒性で 6 mg/kg/日、生殖毒性で 30 mg/kg/日であった。

ヒトの健康に関しては、ばく露シナリオが無いことから本物質の 1 日摂取量を推定できなかった。しかしながら、一般環境の下での健康リスクはばく露状況に基づいておそらく低いと思われる。

[著作権および免責事項について]

[著作権]

本資料の著作権は弊センターに帰属します。引用、転載、要約、複写（電子媒体への複写を含む）は著作権の侵害となりますので御注意下さい。

[免責事項]

本資料に掲載されている情報については、万全を期しておりますが、利用者が本情報を用いて行う一切の行為について、弊センターは何ら責任を負うものではありません。また、いかなる場合でも弊センターは、利用者が本情報を利用して被った被害、損失について、何ら責任を負いません。